PART 3

学習し、行動して南海トラフ地震を克服する

名古屋大学減災連携研究センター長
福和伸夫

東海地方に迫る地震の危険

幸いにも愛知県下では、一九四四年の東南海地震、一九四五年の三河地震以降、深刻な地震被害が発生していません。ですが、全国各地ではこの二十年間、阪神淡路大震災や東日本大震災など、大きな地震があい次いでいます。長い時間、地震が起きていないということは、いずれ大きな地震が発生することを意味するので注意が必要です。

愛知県の目の前に広がる太平洋の下には、「南海トラフ」と呼ばれる海の溝があります。ここでは、百年程度の間隔で定期的に大地震が起きています。江戸以降だけでも、一六〇五年の慶長地震、一七〇七年の宝永地震、一八五四年の安政地震、一九四四年の昭和地震の四つがあります。この地震はプレート境界で起きるマグニチュード八クラスの巨大地震で、前後には内陸直下で、活断層による地震が頻発します。このため、社会が混乱し、安土桃山、元禄、江戸時代、第二次世界大戦の終焉の時期など、歴史の転換期と重なりました。

現在、最後の地震から既に七十年がたちました。政府の地震調査委員会は、今後三十年間の地震発生確率を七十パーセントと評価しています。「明日の降水確率は七十パーセント」と言われると、多くの人はコウモリ傘を用意すると思います。我々大人や子どもたちは、そんな時代を生きているのです。

一昨年・昨年と、内閣府から最大クラスの南海トラフ巨大地震に対する被害予測結果が公表されました。その被害の大きさは、最悪、東日本大震災の十倍以上になり、わたしたちの国の存立にも関わることがわかりました。この災害に立ち向かうには、国民が総力をあげて、災害被害の軽減に取り組む必要があります。

今の子どもたちの親世代は、大きな自然災害や戦争を経験することなく、豊かな生活を過ごしてきました。しかし、国民一人当たりの国内総生産（GDP）は世界二十四位にまで低下し、一〇〇〇兆円にも及ぶ多大な債務を抱えています。このような中、これからの日本は、大きな災害や少子化による人口の減少など、困難な時代を迎えることがわかっています。それを克服するには、自らの命は自ら守る「自助」と、互いに助け合う「共助」の力が不可欠になります。この二つは、人間や社会の「生きる力」です。子どもたちには負の遺産を残すことなく、真の「生きる力」を授けてあげたいですね。学校だけに頼らず、家庭や地域社会での学習や行動を通して「生きる力」を育んでいきましょう。

地震災害を克服するための三つの秘訣

大きな災害を克服するには、「危険を避ける」「災害に負けない抵抗力を

つける」「災害後にたくましく回復する力をもつ」の三つがポイントとなります。

危険を避ける基本は、災害の少ない安全な土地に住むことです。プレート境界上に位置するわが国は、自然災害のメッカです。このため、先人たちは危険を避け、自然と折り合いをつける日本文化を育んできました。かつての集落場所を見ると、危険の少ない台地や丘陵地のふもとに限られています。ですが、戦後、人口増加と都市への集中で土地が不足し、人々は人工空間の中で過ごすようになり、自然の怖さを忘れがちになりました。

また、便利さや見栄えを大事にするようになったことで、災害危険度の高い場所に住む人が増えてきました。例えば、「リバーサイド○○」や「シーサイド××」といった名前のマンションを、皆さん一度は目にしたことがあるのではないでしょうか。このことからも、昔は危険と考えられていた川沿いや海沿いに、住居がたくさん建てられる時代となったことが見てとれます。堤防に守られた低地は地盤が柔らかく、揺れや液状化、水害などの危険度が高い場所です。子どもたちには、将来の下宿探しやアパート探し、新居探し、マイホームづくりなどで、安全な土地を選んでもらいたいと思います。

二つめは、家具の転倒防止や家屋の耐震化といった地震対策です。行政へ学校の耐震化を訴えているのに、子ども部屋の家具を固定していないかたにときどき遭遇します。まずは、自宅の安全確保が全ての基本です。子ども部屋の平面図に家具を描き、更に家具が倒れた場所を描くと、災害時の危険がすぐにわかります。ぜひ、各ご家庭でやってみていただければと思います。

三つめは、災害後を想定した事前の準備です。家族の安否や避難先の確認、水や食料の備蓄など十分な準備をしておけば、いち早く生活を回復できます。また、つらいことを乗り越えるには、体や心を鍛えておくことも大切です。

愛知県は製造業や農業が盛んで、歴史があり自然も豊かです。海は静かな内湾で、津波危険度も他の地域よりは低い場所です。徳川家康が行った清洲越しにより、清洲城から台地の強固な名古屋城に移転したり、戦後にすばらしい防災都市計画をするなど、災害を未然に防いできた街です。子どもたちもたくさん生まれている、日本でいちばん元気で安全な県です。子どもたちが「将来も愛知県に住み続けたい」と思うような地域にしていくことが、なにより大切だと思います。